

アカデミック・ライティング入門ーアイデア発想編 レジュメ

2015年5月22日(金) 担当・文責：濱口 喜広

(1) レポートの形式

① 表紙に、タイトル、所属、学籍番号、氏名、ページ番号

余白など、見やすいレイアウトにする

② 参考文献

書籍 文献番号、著者名、書名、出版社、出版年度

論文 文献番号、著者名、出版年度、タイトル、出版社、ページ番号

HP 文献番号、(著者名)、サイト名、サイトアドレス、アクセス日時

③ 適切な引用

引用であることを明記(段落を分けても良い)

→ ○○によると、……………

→ 著者名・書名・ページ番号を明記

1) ブロック引用

『…』で、引用部分を区切り、引用した文献の文章を一字一句変えない引用

2) 要約引用

引用文献を自分で要約した上で、引用する(3割ルール)

→ 文章表現を変えても良いが、文章の内容を変えてはならない

→ 著者の述べてない内容を書く危険性

(2) レポートの構成

・ レポートの構成

序論ー本論ー結論

① 序論

・ 問題意識

その内容を書く動機を素直に書けばよい

調べたい内容＝説明したい内容を書く

← レポートの内容が社会に役立つ、社会問題の解決策になる等が簡単

・序論構成

社会状況 → 問題意識(動機・命題・貢献) → 結論の要約 → レポート構成

②本論

- 1) 調べた内容を書く → 証明すべき命題を書く → ○○ならば、○○である
- 2) 証明方法を考える → 文献調査 → 内容を箇条書きにまとめる
- 3) 調査内容を考察 → 自分の考えをまとめる → 結論

・文献調査

*タイトルと目次の斜め読み

*巻末の参考文献欄をチェック

帰納的：調べたいことを先に明らかにしておくこと調べ易い

演工的：興味のある文献を読んでから、調べたいことを探す

・本論構成

文献紹介 → 方法説明 → 論証 → 結論

③結論

説明した内容を簡潔にまとめる。無駄に多く書かないこと

- 1) 説明した内容(命題)・証明方法・結論
- 2) 内容の未熟な点と改善策を今後の課題として書く

(3)構成の作り方

①序論

・社会状況

近年、日本社会では・・・・・・が大きな社会問題になっている。○○によると、○○年には・・・・だった○○が、・・・・となっている。この問題に対する議論は平行線をたどり、有効な解決策を見出せないでいる。

*統計情報を引用すると、説得力が増す

*答えが出せていない状況を書く → レポートを書く意義が生まれる

・問題意識

こうした中で、〇〇が有効な解決策と指摘されている。〇〇によると、・・・と主張している。これは、・・・である。しかし、□□は、〇〇の主張には限界があると述べている。なぜなら、・・・だからである。両者の意見は・・・を明らかにしているが、・・・に関する視点が欠けている。この視点を踏まえた研究により、この問題に対する有効な解決策を出せる。そのため、今回、この・・・を研究する。

*既存の文献(先行研究)の不備を指摘する(批判) → 研究の意義が生まれる

批判：論理的根拠を元に、内容を評価(+・-)する → 理性的判断

批難：感情的判断を元に、内容を否定(-)する

*レポートの内容が先行研究の不備を解決できることを書く → レポートに価値あり

・結果の要約

本研究では、・・・(研究方法)により、・・・(命題)を明らかにする。分析の結果、・・・が明らかになった。その理由は、・・・である。

*可能な限り簡潔かつ論理的に書く

・構成

レポートは、以下の通り、構成されている。序論では、・・・について述べる。本論では、・・・について考察する。結論では、今後の課題を述べる。

*序論は、全体の大まかな要約になっている ← ここで興味を持てば本論が読まれる

②本論

1)調べる内容を決める

・証明すべき命題は暫定版でよい ← 考察を踏まえて、適時、修正可能

・研究は、フィード・バックの繰り返し (①、②、③を行ったり来たり)

- ① 命題を考えて、調べて、レポートを書く
- ② 執筆中に、新しい文献や新しい考えを見つけ、内容を修正
- ③ 誰かと議論し、自分の盲点に気づき、内容を修正

2) 証明方法を考える ← それぞれ、選択した理由を書くこと

① 事例の収集

各国・各地域の事例を 3~5 個ほど集める

二項対立を利用して、特色が出やすい組み合わせを選ぶ

例) アメリカ・イギリス・ドイツ・日本・フランス・ロシア・中国

- ・日本は、比較対象の基準
- ・日本より左側は、資本主義・分権主義／右側は、社会主義・集権主義

*日本より優れている事例なら、日本に導入すべきと提言できる

日本より劣っている事例なら、日本の先進事例を伝えるべきと提言できる

← 優劣の判断を下すために、論理的根拠が必要

② 事例の整理

比較の基準を決める

*二項対立の中心を基準にする (今回は、日本)

*右寄りと左寄りで、相違点を区別しやすい

比較内容を 3 つくらい選ぶ

・各事例から、3~5 つ程、比較内容を箇条書きにまとめる

*比較の基準(日本)と類似している点と相違している点を区別する

3) 調査内容を考察 ← この内容が、あなたの独創的作業

・類似・相違している理由を考えてみる

→ 論理的にまとめること (〇〇なので、〇〇である)

*自分で考えた理由と調べた文献に書いている理由を比べて、理由を考える

→ 先行研究と研究結果が異なる部分が、新しく生まれた学術的知見

③結論

本レポートでは、・・・について研究した。(研究方法)により、(命題)を得た。これは、・・・だからである。この研究により、・・・により有効な解決策を提示できた。しかしながら、この問題を議論する際には、〇〇や〇〇についても考察する必要があるが、時間の制約でできなかった。この点に関しては、今後の研究課題である。

- ・次回の研究課題を書くことで、この研究が今後も続いていく

(4)参考文献の記載例

・参考文献

- [1] 堀 一成、坂尻 彰宏、「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」、大阪大学全学教育推進センター、2015年
- [2] 初めてレポートを書く大学生のための大学レポートの書き方、<http://www.report.gusoku.net/>、2015年5月18日15:21アクセス

← 記載内容が削除・変更される可能性があるため

← 引用したサイトページを印刷しておくべき

(5)最後に

- ・斜線下線部文字が、独創的部分
- ・今回の内容は、一例に過ぎない
- ・様々な文献を調べることで、内容や調査方法を知り、模倣する
- *常識に囚われなくて、自由に柔軟な発想を
- *間違いは当たり前。間違いの発見と修正は、大きな前進
- ・時間には制約あり。突き詰める内容とそうでない内容にメリハリを